

◎食のリスクコミュニケーション・フォーラム 2022(4回シリーズ)

『消費者市民に対して説得ではなく理解を促すリスコミとは』

第1回テーマ: 『食品添加物の不使用表示について』(オンライン)

【開催日】2022年4月24日(日)13:00~17:30 (講演会)

【開催場所】 オンライン会議(Zoom)

【主催】NPO 法人食の安全と安心を科学する会(SFSS)

【後援】 消費者庁

【賛助・協賛】

キューピー株式会社、旭松食品株式会社、カルビー株式会社、株式会社セブン-イレブン・ジャパン

日清食品ホールディングス株式会社、日本生活協同組合連合会、サラヤ株式会社、日本ハム株式会社

【対象】食品関連行政の担当者、食品事業者の広報・お客様相談・品質保証担当、リスク研究者、
マスメディア、消費者団体・市民団体、など

【定員】 先着 70 名(オンライン会議のため増員の可能性あり)

【講演会参加費】 3,000 円/回、学生は 1,000 円/回(事前に銀行振込をお願いいたします)

* SFSS 会員、後援団体・協賛企業(口数により人数制限)、メディア(取材の場合)は無料

【参加申込み】 <https://forms.gle/VarSATGGevBpMcrG8> (申込期限:4月22日(金))

【お問い合わせ】SFSS 事務局まで(info@nposfss.com)

【本フォーラムの主旨】

毎回、食のリスクに詳しい有識者をお迎えし、講師 3 名(各 50 分)+総合討論(90 分):13:00~17:30 の構成とします。総合討論では、消費者市民に対して説得ではなく理解を促す食のリスクコミュニケーションのあり方について、会場からの質問に講師が回答する形で議論します。

【事故防止対策等】フォーラム開催に際して、事故防止及び公衆衛生の措置に留意し、十分に講じます。特に、今般の新型コロナウイルスに関しては、十分な感染症対策等を講じることとします。

【各講師のご紹介&講演要旨】

① **宇野 真麻(消費者庁食品表示企画課 課長補佐)**

『食品添加物の不使用表示に関するガイドラインについて』

食品添加物の不使用表示に関するガイドラインについてお話いたします。

食品添加物が不使用である旨の表示は、食品関連事業者等が容器包装に任意で行っているものです。表示禁止事項を定めた食品表示基準第9条では、任意表示であったとしても、誤認させる表示、義務表示事項の内容と矛盾する表示であれば、消費者の食品の選択の機会において正確な情報たり得ないとして禁止しています。今般、表示禁止事項に該当するおそれが高いと考えられる表示についてガイドラインを取りまとめたのでお話いたします。

② 佐々 義子(くらしとバイオプラザ21 常務理事)

『“〇〇でない表示”で広まるリスク誤認』

食品添加物の不使用表示ガイドラインがついにできました。その背景にはいくつかの理由がありますが、「〇〇」にあたかもリスクがあるように消費者を誤認させ、結果的に健全な食のリテラシー醸成を妨げるというのが大きな理由のひとつです。一方、この「〇〇ない」表示は、差別化して自社の製品をアピールし、売り上げを伸ばすための役割を果たしてきたのも事実です。表示は消費者と食品事業者をつないでくれる大切な懸け橋です。「〇〇ない」表示が消費者にどのような影響を与えてきたのか、健全な表示はどうあるべきかをご一緒に考えたいと思います。

③ 小島 正美(食品安全情報ネットワーク(FSIN)共同代表)

『無添加ガイドラインこれからどうなるか～報道の構図と対策～』

無添加表示が横行する背景は何なのか。またメディアはその状態をどう報じているのか。メディアの関心が強いようには思えないが、そのことが無添加の横着ぶりを助長しているように見える。現実スーパーなどで見られる無添加表示を見ながら、どう改善していけばよいかを一緒に考えてみたい。消費者庁のガイドラインは無添加表示の横行に歯止めをかけるのか。ガイドラインは個人的には思ったよりも充実した内容だ。ガイドラインをうまく活用すれば、リスク誤認をもたらす無添加表示を減らすことができるはずだ。それがうまくいくかどうかはメディアの報道いかんであろう。

以上